

読者の皆さんから届いたお便りなどを紹介します

富山県下で開催された全国スポーツ・レクリエーション祭のフォークダンスの部に、総社フォークダンスクラブの6人は10月16日から3日間、岡山県代表として参加しました。会場は、風光明媚な氷見市でした。



岡山県チームで記念撮影

全国を8ブロックに分け、ブロックごとに課題曲に合わせた踊りを創作し発表します。岡山県は山口、山梨、福井、茨城、富山と同じブロックで全36人。課題曲は、アルゼンチンの民族舞踊「リオ・タンゴ」でした。

初めて顔を合わせる選手と協力するので、最初は意見がまとまらず、焦りもありました。ですが、次第に感情も高まり、リズム感も一つになり、みんな笑顔で目線を高く演技でき、特別賞をいただくことができました。

この仲間との交流の輪を広げることもでき、とても充実した3日間でした。(総社フォークダンスクラブ会長
加藤寿美子さん・山田)

新潟県で10月15日から3日間開かれた全国家庭婦人バレーボールことぶき大会に、市内の60歳以上のママさんバレーボール選手で編成した「総社さくら」は、岡山県代表で出場しました。



笑顔いっぱいの総社さくらの選手たち

年齢とさえないナイスプレーの連続で選手も応援する人も、手に汗握る試合が繰り広げられました。苦戦も強いられました。大会前の猛練習の成果を発揮し、4戦4勝という好成績を納めました。岡山県勢としては初の快挙です。

この感動と充実感を胸に、ママさんバレーボールこそ生涯スポーツだと、これからもプレーし続けたいと思います。(総社さくら監督
今井満寿美さん・中央一丁目)

市民憲章

わたくしたちは、美しい自然と豊かな吉備文化にはぐくまれている総社市民です。

このことに誇りと責任をもち明るく豊かなまちをつくることにつとめます。

- 1 郷土を大切に
美しい環境をまもりましょう。
- 1 生涯学び
明るい家庭をきずきましよう。
- 1 たがいに助け合い
あたたかいまちをつくりましよう。

市の花・木・鳥

- ◎市の花/れんげ
- ◎市の木/もみじ
- ◎市の鳥/タンチョウ

今月の表紙

環境学校でアルピニストの野口健さんと、不法投棄のごみを回収する総社東小学校の子どもたち

編集後記

■今年も残りわずか。来年のためにも、やり残しの無いように仕事も家庭も片付けながら確認したいと思う。時間がもっとほしいなあ。
■国民文化祭のステージは熱いものばかりだったが、外はすっかり涼しくなった。秋はあっという間に過ぎてしまった。
■今年の秋の取材はすさまじかった気がする。市民憲章の全国大会から国民文化祭まで一気に。気がつくともうお正月の準備が……。

**桃のシロップ漬が当たる
広報クイズ**

今月の「広報そうじゃ」をよく読んで、次のクイズにお答えください。

Q1 地上デジタル放送の中継局の総社局ができる山は、○○山
【応募方法】 はがきに答えと住所、氏名、電話番号、市政や広報紙に対するご意見やご要望を明記のうえ、編集室へ。全問正解者のなかから2人に桃のシロップ漬を贈ります。
【応募期限】 1月4日(火)
【10月号の答え】 ①10月30日
【10月号の当選者】 山川久代さん(東阿曾)、津田孝子さん(東阿曾)。(応募者数16人)

■応募先 〒719-1192 中央一丁目1番1号 総社市役所企画課



写真右奥の野口さんが拾ったごみをリレーして回収する総社東小学校の児童

野口健と環境学習
環境観光大使
清掃活動を通して



回収した不法投棄のごみ。こんなにもあり、「ひどいと思った」といった声が子どもたちからあがっていた



自身が取り組むエベレストや富士山での清掃活動を、子どもたちに分かりやすく話した野口さん

総社市環境観光大使でアルピニスト、さらにはエベレストや富士山で清掃活動に取り組んでいる野口健さんを講師に迎え、総社市環境学校を11月9日、市内の山中や備中国分寺などを会場に開催しました。

「理屈ではなく経験のなかから感じてほしい。周りにあるすてきな自然が好きだから、守りたいと思えるようになってほしい」と、話す野口さん。総社東小学校の

野口健さんを講師に迎え、環境を勉強していこうと創設した「総社市環境学校」。今年は、総社東小学校の子どもたちが、不法投棄のごみの回収や講演から環境について学びました。



アルピニスト野口健

総社市の環境観光大使。平成11年にエベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰の世界最年少登頂記録25歳をもつ。平成12年、エベレストや富士山での清掃活動を始めるなど、積極的に環境問題への取り組みを行っている。

4年生約50人と市内の山中を清掃。不法投棄されていたタイヤやベビーカー、缶など、軽トララック2台分のごみを回収しました。

続いて、備中国分寺客殿で行われた講演には、同小の3年生も加わり、保護者やごみ減量サポーターら約200人が参加。野口さんは、ごみだらけの富士山を見て、何とかしなければという思いから清掃活動を始めたと話し、「自分には何ができるかを考え、行動に移してほしい。子どもでも世の中は動かせるから」と、熱く訴えました。

お礼の言葉で梶原風さん(同小4年)は、「環境を守るため、すすんでごみを拾っていきなさい」と、決意を言葉にしました。